



## 2019 年 新年のご挨拶

(一社) 岐阜県臨床検査技師会  
会 長 浅野 敦

皆様、新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年6月に会長を引き継ぎ、新執行部体制で岐臨技を運営して7ヶ月が経過しています。この間、大きな支障なく事業を展開できているのも会員皆様のご理解とご協力によるものと感謝しております。昨年は甚大な自然災害が多く発生し、岐臨技会員の中でも被災をされた方がみえます。自然災害はいつどこで起きるかわかりません。この災害発生に備え、岐臨技災害時対策マニュアルを作成しました。HPで一度確認をお願いいたします。さて今年も多数の行事を開催する予定にしていますが、何よりも大きな行事として挙げられるのは、岐臨技担当で10月12日(土)、13日(日)に開催する日臨技中部圏支部医学検査学会です。活気ある学会とするために目標とする数字は、学会参加者数1,000名、一般演題数150演題であります。学会実行委員はもとより、岐臨技会員皆様のご協力無しでは到達し得ないものです。一般演題のエントリー、学会への参加、また実務委員としてなど様々な形で係わっていただくことをお願いいたします。また、今年新たに行う予定としている事業があります。岐臨技交流会(仮称)という名のレクリエーションです。会員間の交流・親睦を図る目的が大きいですが、“日常業務の疲労解消”と“単純に楽しんでいただく”もコンセプトとした会にすることを目論んでいます。開催時期は未定ですが、岐臨技の恒例行事と昨年末に初めて開催した技師長連絡協議会を合体させて開催できるように調整をしていきますので案内をお待ちください。

臨床検査技師を取り巻く医療情勢は、決して楽観視できるものではありません。地域包括ケア体制が進められている昨今、日臨技は在宅医療、病棟業務、チーム医療、検査説明等に積極的に係わっていくことを推進しています。この先20年、30年と働く若手技師や臨床検査技師を目指そうとしている学生が、臨床検査技師として職を全うしていただくためにも、新たな姿をひとつでも多く見せる必要があります。岐臨技会員860名、皆で取り組み成果を挙げていきませんか。アイデアはいつでも歓迎です。気軽にお声かけください(叱咤激励も歓迎いたします)。

岐臨技と会員の皆様のますますのご発展につながるよう一層の努力をいたしますので、今年も変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(2019年元旦)



## 災害派遣技師研修会に参加して

大垣市民病院 高木明美

平成30年度“災害派遣技師研修会”に参加させていただきました。会場は JR 品川駅から 2 駅、京浜東北線大森駅から徒歩 7 分の所にある一般社団法人日本臨床衛生検査技師会館です。研修は2日間で、39 都道府県、54 名の参加がありました

この研修会において「災害医療概論」「災害地内で医療活動を行うために必要なこと」「国際医療技術財団 (JIMTEF) の活動紹介」「派遣準備から被災地入りまでに必要なこと」「発災時の机上シュミレーション」について学びました。詳細を下記に記します。

・災害の定義、種類、切迫性及び救急医療と災害医療の違いがあり災害の種類はさまざまに対応の仕方も変わってきます。私たちは地域特有の災害危険因子を把握しハザードマップを確認して準備する必要性を学びました。またどのような事故災害も同一の体系的な対応によって管理することができ、その項目は CSCATTT 《C (command (指揮))、S (safety (安全))、C (communication (情報)) A (assessment (評価))、T (triage (トリアージ))、T (treatment (治療))、T (transport (搬送))》です。この CSCATTT 個々の内容をしっかり把握し、どのように支援者として入って行くのかを学びました。単に熱意だけで現場に入って活動してはいけない、現場で活動するには、それに対応した知識と装備等が必要であることを認識しました。

・被災地内で医療活動を行うための必要なことではロジスティック (以下ロジ) を中心に聴講しました。ロジとは軍隊用語で兵站 (へいたん) を意味し原料の調達から供給製品の販売に至るまでの流れの合理的管理システムのことです。日常から非日常への切り替えのスイッチを ON にして、CSCA をこなすロジ力の重要性を学びました。また被災地で臨床検査技師ができることとして病院検査室支援及び純水の補給 (輸血に対する検査や血液製剤管理)・DVT 深部静脈血栓症に対する検査・POCT 機器・キットを用いた簡易検査及びそれらに対する対処、慢性疾患の憎悪防止 (糖尿病や高血圧他)・避難所等の公衆衛生関連の整備・構築・指導他…多岐にわたります。“自分は検査技師だから検査だけです。”という考え方を変えなければいけないことを認識しました。そして災害医療活動であるべき姿とは、災害を学び、災害を知り被災地・被災者が平常をできるだけ早く戻るように努める医療支援を心がけることが大切で、前にも記しましたが検査技師における避難所医療は DVT 検査が主ではありません。ロジ力を身に着け生かし、血栓の怖さを知っているからこそ予防、啓蒙活動をし、病院が機能している避難所での実施ではなく医療機関への手段を構築すること、災害時の被災者感情に寄り添えるようにすること、情報の重要性を知ること、必ず訓練で繰り返し実施していかなければならないとの重要性を通感しました。

・発災時の机上シュミレーションでは参集から被災地活動までを各9人+DMAT1人、6グループに分かれて話し合い、意見をまとめ発表しました。

私にとって講演内容はものすごく密で、全てを理解するには 2 日間という時間はかなり短く感じ充実した研修でした。この研修会に多くの方が参加し、理解し、検査技師が防ぎえた災害死を一人でも阻止できるよう努めていけたら素晴らしいと思いました。



## 秋季拡大研修会

中濃地区 実行委員長

川合 直樹 (JCHO 可児とうのう病院)

平成 30 年 11 月 18 日 (日) 岐阜医療科学大学にて(平成最後の)秋季拡大研修会が開催され、80 名の参加がありました。今回は病理細胞部門、染色体・遺伝子部門担当で「今後のがん医療」をテーマとしました。これは臨床検査だけでなく日本の医療界における大きなテーマでもあります。病理細胞部門講師 東海中央病院 緩和ケアセンター長 川端 邦裕先生にて「がんと共に生きる緩和医療」、染色体・遺伝子部門講師 東京大学医学部附属病院 認定遺伝カウンセラー 大瀬戸 久美子先生にて「ゲノム医療と遺伝カウンセラーの日常診療での関わり」を講演いただきました。緩和医療とゲノム医療、相対する存在でもあります。「緩和医療」と「ゲノム医療」のどちらもよく耳にしますが、実際にはどのようなものであるのか知らない事も多くあります。それらの基礎的な事から臨床での現場における両先生の活動はとても興味深いものでした。遺伝カウンセラーという職業は、学問的な知識のみならず、高度な話術が必要である事を、大瀬戸先生から感じたのは私だけではないでしょう。今回の講演名から、私なりにサブテーマを「救える命(ゲノム医療)、救えない命(緩和医療)」としました。市民公開講座では、サブテーマを意識し、牛田 尊さんに「今、あなたにできること～AED で助けられたからこそ伝えたい～」を講演いただきました。牛田さんは 2005 年の愛知万博会場内にて、突然意識を失い、心肺停止状態に陥りました。そこにたまたま居合わせた医学部生により胸骨圧迫と AED により救命され、その後の後遺症もなく完全社会復帰されました。この経験を機に命の大切さ、また一般市民による BLS(一次救命処置)と AED の大切さを訴え、AED の普及活動のために全国各地で講演をされています。私自身が、以前その講演を拝聴し感銘を受けました。講演依頼の際に「臨床検査技師の方には、過去に初期のがんを発見していただき感謝しております。ぜひ講演させてください。」と快く引き受けて頂きました。牛田さんの講演から多くの方が、命の大切さを再認識されたと思われます。AED を使用しても救える命は限られていますが、その場面においては勇気をもった行動で命を救うこともできます。臨床検査技師の一步踏み出す勇気に期待します。

今後、科学技術の進歩により救える命も増える事でしょう。臨床検査技師は、ゲノム医療に大きく関与しております。その結果の重要性から、遺伝子関連・染色体検査の精度の確保をどう保障していくのか?それが医療法の改正の趣旨でもあります。精度の高い検査結果がなくては、さすがの遺伝カウンセラーもその職務を遂行する事はできません。

将来的には、臨床検査技師も「緩和医療」「ゲノム医療・遺伝カウンセラー」に深く関与し、「救急医療・災害医療」の現場にその身を置くかもしれません。その時には「こんな研修会もあったな」と思い出してみてください。最後に秋季拡大研修会開催にあたり、ご協力を頂きました技師会員、賛助会員、ランチョンセミナー講師の先生方、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。





## 「第 39 回ぎふ市民健康まつり」

岐阜地区理事 岐阜清流病院 森さゆり

平成 30 年 11 月 4 日 岐阜市民文化センターにて、「糖尿病」をテーマに第 39 回ぎふ市民健康まつりが開催されました。医療に関わる 12 団体が参加する、市民の健康を考え、体験ができるとても人気のある岐阜市のイベントです。今年も延べ人数約 1 万 5 千人が小雨の中でも、様々なコーナーを楽しんだそうです。

岐阜県臨床検査技師会もボランティアスタッフ 30 名で、昨年同様の 3 つのコーナーを開設しました。各コーナーの参加人数は尿検査 212 名、血管年齢 760 名、頸動脈超音波 176 名でした。いつもと違う仲間と協力し、コミュニケーション力にチーム力を発揮して、笑顔で優しく、全力で検査や説明対応している様子に、参加された市民の皆さんも満足そうでした。

また、各コーナーを見回っていた保健所長さんから「臨床検査コーナーは毎年、市民の皆さんに一番人気なんだよね頑張ってください。」と声を掛けて頂きました。

来年は第 40 回記念イベントになるそうです。今年是一日中、検査のみで終わってしまいましたが、来年はボランティアスタッフとして参加された皆さんにも、他団体の体験などに参加してもらえるよう考えています。患者さんとは違った市民の皆さんと検査を考えるイベントです。毎年各地区でも開催されています。会員の皆さんも是非、ボランティアスタッフとして参加してみてください。



## 岐阜県無料 HIV 検査会

組織調査部 澤野晴夫

11 月 3 日(土)に岐阜駅のハートフルスクエア-G で HIV 検査会が行われ、技師会では HIV 抗原抗体検査のお手伝いをさせていただきました。

今年度は 40 名を超える方が受検され、過去最高の人数でした。県の職員の方々や関係団体の皆さんの日頃の啓発活動のおかげだと思います。HIV 感染の拡大を防ぐためにも、保健所以外の街角で行われる検査会は重要な役割を果たしています。私たち検査技師が検査室の中だけではなく、外でも活躍できる場が今後もっと増えていくよう考えていかなければと感じました。



## 検査と健康展

組織調査部 澤野晴夫



12月2日(日)に関市わかさプラザで検査と健康展が開催されました。昨年同様に関市のいきいきフェスタに岐阜医療科学大学さんと岐臨技での共同の参加です。当日は400名の市民の方が受付をされ、各部門や大学さんの企画された検査を体験されたりパネル展示説明を興味深く聞かれたり、臨床検査専門医会の先生に健康相談をされていました。検査と健康展は、市民の方々に臨床検査や検査技師の仕事を知っていただくきっかけとなったり、健康に関する情報提供の場であったりするので各担当者の皆さんは熱心に対応されていました。また、今年は大学の学生さんが技師会の各部門に入っていたり、一緒に活動することができました。お互いに良い刺激になったのではと思います。

来年も又、楽しめる検査と健康展になるよう企画していきたいと思います。前日の会場設営からお世話になった岐阜医療科学大学さん、そして各部門担当、実務委員のみなさんありがとうございました。



## 平成30年度日臨技中部圏支部生物化学分析部門研修会を終えて

石田秀和(岐阜大学医学部附属病院 輸血部)

本研修会ではテーマを「合目的な Medical Science」とし、研修会への参加のみならず、ひとつひとつの講演に対し目的意識を持って臨んでもらおうという意図のもとプログラムを構築しました。スタッフ併せ86名のご参加をいただき、盛況に終了することができました。



プログラムとしては、生化学免疫検査の基礎的講義ならびに検査データを読むために必要な薬剤のお話や画像検査のお話に加え、精度保障に係る国際認証、改正医療法、共用基準範囲についてご講演いただきました。薬剤や画像の講演については現役の薬剤師ならびに放射線技師養成校講師にお話いただき、とてもわかりやすいと好評でありました。また、会の最後には各県部門長をパネラーとした総合討論を実施しました。改正医療法が施行されて間もないこともあり、参加者が各施設で抱える悩みを解決する糸口になったのではと考えております。



## 輸血実技研修会報告

松波総合病院

森本 剛史



日時 2018年12月01日(土)

14:00~17:00

場所 岐阜医療科学大学

内容

- 1) 凝集の目合わせ
- 2) 血液型
- 3) 不規則抗体検査



「輸血検査の知識と技術の向上」を目的として、初級者クラスを対象に実技研修会を行った。会場は岐阜医療科学大学の実習室で行い、県内10名の技師が参加した。新人やローテーションで輸血業務を担当になったばかりの技師がほとんどであった。また、意欲ある学生5名も参加し、輸血検査の基本操作を学んだ。



内容については、試験管法による凝集の目合わせ、ABO・RhD 血液型判定、不規則抗体スクリーニング、不規則抗体同定の内容で企画した。自動化が進み、普段試験管法を行う施設が減少してきた今日であっても、機器トラブルなどの場合は試験管法を行う。どんなに自動化が進もうが、試験管法は輸血検査の基本操作であり、病院検査技師であれば習得しておかなければならない技術の一つであろう。また、県内の認定輸血検査技師の協力を得て受講生に丁寧に教えていただいた。協力していただいた認定輸血検査技師、会場・機器を提供していただいた岐阜医療科学大学に感謝申し上げたい。

# Rookie Medical technologist



「働いて感じたこと」  
木沢記念病院 検査技術部  
安藤 志歩香

働き始めて早くも半年が過ぎ、臨床検査技師として日々の業務に慣れてきました。私は生理検査室に配属となり、日々多くの患者さんと接しています。初めはなかなか患者さんとコミュニケーションがとれず、上手く検査の説明が伝わらなかったり、結果が思う様に出ないことばかりでしたが、今では先輩方の丁寧なご指導により、分かり易く、工夫しながら説明し検査を進めて行けるようになりました。また、失敗の中で自分の名前でも検査結果を報告することの責任の重さを改めて実感しました。新しい事を学ぶ毎日ですが、自信をもって結果を出せるようこれからも精進していきたいと思っています。

当直も始まり、まだまだ知識も技量も足りていない事を痛感しています。1人でこなしていかなければならない状況下で、トラブルや緊急性の高いものが来た時、慌てず冷静に行動できるようになりたいです。そして1日でも早く先輩方に追いつき、これからの医療に貢献できるよう、より一層励んでいきたいと思っています。



# Rookie Medical technologist



「半年経ちました」  
木沢記念病院 検査技術部  
鈴木 理紗

臨床検査技師として働きはじめて半年ほど経ちました。

私は生理検査に配属され、日々、心電図や肺機能検査、脳波検査等を通して患者さんと関わっています。日々の業務には慣れてきましたが、患者さんにより性別、年齢、背景などが違うため、正しい結果かどうかの判断は難しいと感じます。初めの頃は先輩についてもらい、結果の確認を一緒に行っていましたが、現在は自分で判断できるようになり、より一層責任を感じるようになりました。

また、検査中の様子を医師から尋ねられることもあり、検査結果と検査中の患者さんの状態を結びつけて考えるのは臨床検査技師の役割なのだと感じました。ただ検査するだけでなく患者さんの様子の観察や、コミュニケーションをとって、医師に自信をもって結果を報告していきたいと思っています。まだまだ私の行える検査は少ないので、今後、様々な検査が行えるよう日々勉強に励み、検査を覚えていきたいと思っています。

## 第 58 回中部圏医学検査学会(岐阜)進捗について

実行委員会

「飛躍」  
～“臨床検査”さらなる展開に向けて～

刀磨治  
丹空仏  
岐阜県関市・小瀬越(5月～10月)

平成31年度 日臨技  
**中部圏支部医学検査学会(第58回)**  
主催:一般社団法人 日本臨床検査技師会中部圏支部  
担当:公益社団法人 岐阜県臨床検査技師会

平成31年 10月12日(土)・13日(日)  
長良川国際会議場 <http://www.g-ncc.jp/>  
岐阜都ホテル  
〒502-0817 岐阜市長良福光2693-2  
TEL: 058-296-1200 FAX: 058-296-1210

名もなき池(通称:モネの池)

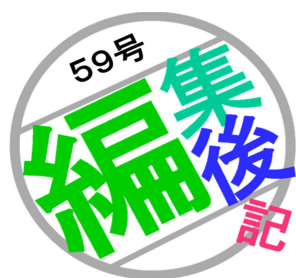
学会長: 浅野 敦(大垣市民病院)  
実行委員長: 高崎 昭彦(岐阜医療科学大学)  
事務局長: 乙訓 貴之(岐阜医療科学大学)

会員の皆様、あけましておめでとうございます。  
いよいよ本年、〇〇元年10月に第58回大会が開催されます。新元号元年という新たな節目に開催できることを喜んでおります。第57回大会視察後、12月19日(火)第4回実行委員会を開催し、視察結果を踏まえ、会場、プログラム進行、また懇親会などの運営について検討しました会場となります長良川国際会議場・岐阜都ホテルの視察も会長、副会長に御足労頂き完了しております。

年末に第58回大会ホームページを開設しました。URLは下記の通りです。事務局の連絡先も確定しましたので一度ご覧いただき、ご提案、ご意見等ございましたらお寄せいただければと思います。

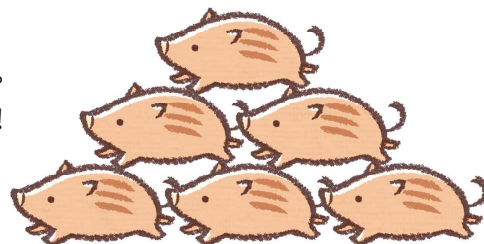
### 第 58 回中部圏支部医学検査学会

<http://58chubu-kensa.net/>



2019 年が始まりました。

今年の干支は“亥”ですが、猪で真っ先に思い浮かぶ熟語は『猪突猛進』でしょうか。でもこれって、“後先考えず周りを気にせず猛烈な勢いで突き進む”の意味からしてもあまり良い印象は受けませんね。目標や夢は常に持っていたいものです。今年一年『勇往邁進』の精神で進みませんか。岐臨技も目標達成に向け邁進していきますよ!!



発行所(一社)岐阜県臨床検査技師会

発行責任者 浅野 敦

〒500-8384 岐阜市藪田南3 丁目5 番地 10 コスタ岐阜県庁前 603 号  
TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

編集者 高崎 昭彦 松浦 康博 種村 久子  
E-mail [giringi-office@giringi.jp](mailto:giringi-office@giringi.jp)